

7 週

構想した学校とチーム学習の評価

今週の目標：

- ・ 前回のポスターセッションの評価から発見した改善点を活かして、構想した学校を修正する。
- ・ 自分たちのチームの学習を振り返り、今後の進め方を検討する。
- ・ 個人で提出する中間レポートの準備をする。

演習 (1) チームで構想した学校の改善点を確認して修正しよう

>> 06-1 チーム発表の評価(チーム) 前回のポスターセッションで回収した評価シート

チームで理想の学校を構想する中で、教育で取り組んでいるのは基礎基本の重視であったり、地域社会との協力や情報技術の導入であったりすることを学んできました。しかし、ここで注目したいことは、時々政治的社会的な課題が学校教育を動かしているように見えながらも、その底流にある確実な教育の発展です。それを見極めることが教育を考える上で重要です。そこで、前回のポスターセッションの反省から確認できた改善点をもとに改めて基本的な事項を見直して、チームの学校を修正しましょう。

演習 (2) これまでのチーム学習の反省と今後のチーム学習の進め方を検討しよう

>> 06-2 チーム学習の評価(個人) 07-1 後半のチーム学習 07-2 チームの機能不全診断テスト
07-3 チームの規範を作ろう 2(チーム)

今週は学習の振り返り地点に相当しますので、これまでのチーム学習についての反省と、これからのチーム学習の進め方について検討しましょう。

《チームで考えるポイント 例》

- ・ チームの役割分担は適切であったか
- ・ チームの情報交換の方法は適切であったか
- ・ 学習の進め方は効率的であったか
- ・ チームで機能不全に陥りやすい弱点はどこか(07-2 チームの機能不全診断テスト)
- ・ 後半のチーム学習におけるチームの規範 (07-3 チームの規範を作ろう 2(チーム))

など

次週講義終了時提出

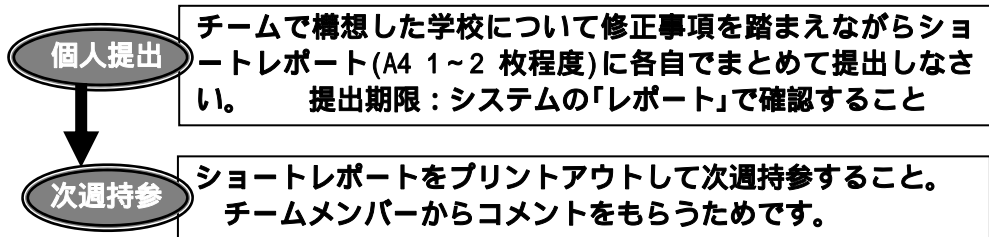
07-3 チームの規範を作ろう 2 (チーム)

講義宿題 (3) レポートを執筆する時のルール

>> 07-4 レポートを執筆する

レポートや論文を書くときには、一定のルールを守らなければなりません。たくさんルールが存在しますが、特に著作権などの人の権利に損害をきたすようなルール違反には気をつける必要があります。参考文献や引用文献、参照 URL(インターネットのアドレス)をしっかりと示しましょう。また、他人の個人ポートレート(写真)を載せないこと、HPの画像や資料を使用するときは許可を得て、出典を明らかにしておくこと、なども気をつけましょう。

- 推奨参考文献1 「だれも教えなかった論文・レポートの書き方」
阪田せい子 ロイ・クラーク 著 総合法令出版 1998.3
- 推奨参考文献2 「レポート・論文の書き方入門」
河野哲也 著 慶應義塾大学出版会 2002.12



今後のスケジュール

7 週目 ポスターセッションの反省、構想の修正、チーム学習を振り返る、中間レポートのプロットを考える

個人課題： 構想した学校のまとめ(A4 で 1~2 枚 = 中間レポート)に学習管理システムに提出

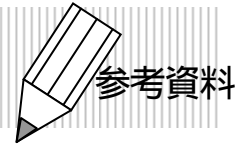
8 週目 チーム内で中間レポートの評価 チーム内で構想した学校の認識のズレを確認

9 週目 メインテーマ「多様な学習者の学力を向上させる」(対象教科：国語，算数・数学) に対して、自分ならどのように取り組むかのサブテーマを決める

個人課題： サブテーマに即した情報を集めて A4 で 1~2 でまとめる

このページは白紙です

チームの機能不全診断テスト



7週目に入って、チーム学習も後半への折り返し地点に差し掛かりました。みなさんのチームは順調に学習できていますか？ それとも徐々に深刻な状況が生じてきていますか？ いずれにせよ、チームワークを形成するということは、とても難しいものだと感じたチームは少なくないと思います。

チームの機能不全のモデル

アメリカで組織と経営チームの強化育成を専門とするパトリック・レンシオーニ(2003)は、著書「あなたのチームは、機能していますか？」(2003, 翔泳社)において、「本物のチームワークはいつになっても実現しにくい」ということと、「組織がチームワークの実現に失敗するのは、自然だが危険な五つの落とし穴に気づかぬうちに陥ってしまうせいである」ということを指摘しています(下線は教材作成者)。レンシオーニは「危険な五つの落とし穴」を下のように図化しています。

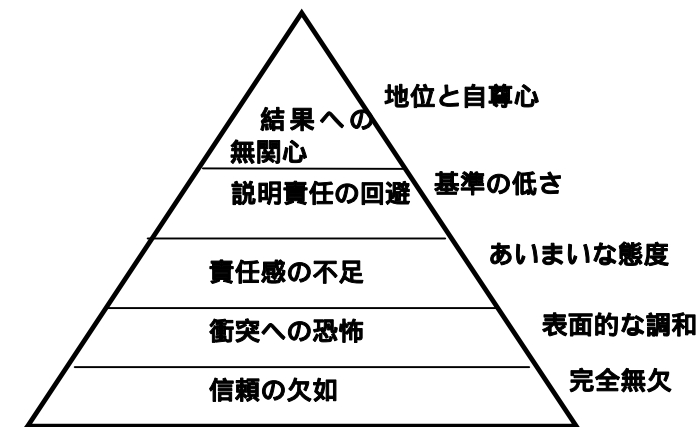


図1 チームの機能不全のモデル
パトリック・レンシオーニ「あなたのチームは機能していますか」p.207より

- 1 信頼の欠如 ...チーム内で自分の弱みを見せないようにすることから生じる。
- 2 衝突への恐怖...腹を割って激しく意見をたたかわせない。あいまいな議論や慎重な発言が多い。
- 3 責任感の不足...表面的に同意をするため、決定を支持し責任をもつことができない。
- 4 説明責任の回避...チームのためにならない行動や態度をとる仲間の責任を問うことをためらう
- 5 結果への無関心...チーム全体の目標より個人のニーズや自分の部門のニーズを優先させる

(以上は「あなたのチームは、機能していますか？」より教材作成者がまとめたもの)

図1は、5つの機能不全が相互に関係していることを示しています。1つでも崩れると全ての機能不全を招く恐れがあるということです。レンシオーニの説明によると、要となる「信頼」が崩れるとたちまち全ての機能は動かなくなります。あなたのチームにどこか気がかりな部分があるとするならば、以上の5つを逆の見方で理解してみてください(例: 2...アイデアをめぐって遠慮なく衝突する)。

裏面のテストは、レンシオーニが著書の中で示しているもので、チームが5つの機能不全にどこまで侵されているかを調べることができます。一人ひとりが取り組み、回答の違いについて議論してみるとよいでしょう。

チームの機能不全診断テスト

3 = いつもそうである 2 = 時々そうである 1 = ほとんどそうではない

(公開にあたって、質問文に関しては省略しました)

「1 信頼の欠如」の点数 = (点)

「2 衝突への恐怖」の点数 = (点)

「3 責任感の不足」の点数 = (点)

「4 説明責任の回避」の点数 = (点)

「5 結果への無関心」の点数 = (点)

それぞれの合計点によって、以下のことがわかります。

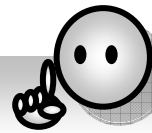
8 ~ 9点...チームに機能不全は現れていないと考えられる。

6 ~ 7点...機能不全が問題になる可能性がある。

3 ~ 5点...機能不全に対処する必要があると考えられる。

出典：パトリック・レンシオーニ(伊豆原弓 訳)「あなたのチームは、機能していますか？」 株式会社翔泳社、2003
チームの機能不全診断テストに関する著作権は株式会社翔泳社に帰属します。
5の機能不全の理解と克服について詳しくは上記の文献を参照してください。

このページは白紙です



レポートの執筆

1. 原稿

ワープロソフトを使用して A4 版の大きさの用紙に報告内容を編集し(文の他にも図や表、写真を使用することも可能)、学習管理システムの「レポート」に提出する。

2. ワープロソフトの設定

用紙設定 : A4 サイズ

文字数と行数 : 40 字 × 30 行(1 ページ 1200 字設定)

文字の大きさ : 見出し以外の本文は 10 または 10.5 ポイントを基本とする

枚数 : ショートレポートは 1~2 枚程度 最終レポートは 10 枚以上

その他書式 : 裏面を参照

3. 執筆内容の見直し

文法の見直し : 「である」調で統一されているかどうか 接続詞は正しいかどうか
分かりやすさ : 同じことを繰り返していないかどうか いたいことが分かるかどうか

3. 提出時の注意

ファイル名

「****レポート」というファイル名で提出する人が多いですが、これではダウンロードした時に誰のファイルかが分からないので、必ずファイル名を「ID 番号-チーム名-氏名」に変更してから提出してください。

再提出の時

提出期限までに時間があるとき、レポートを修正して再度提出することができます。ファイルを指定した後に「コメント」欄に「 月 日 再提出しました」とひとこと書き添えてください。

何らかのトラブルで指導者に相談メールを送る時

学習管理システムの「個人情報変更」「メールアドレスの変更」で返事が受信可能なメールアドレスであるかどうかを確認してください。メールアドレスが間違っていたり、古いメールアドレスであったり、すぐに返事が確認できないメールアドレス(例えば携帯に返事が欲しいのに大学のアドレスを登録していた場合はすぐに返事を確認できません)だったときは、すぐに連絡できなくなりますので気をつけてください。

原稿の書式

↑ 余白 上下左右 20～25 mm

タイトル(12ポイント or 14ポイント)
 学籍番号 学科 回生 チーム番号 構想した学校・幼稚園名
 氏名

1. (「はじめに」 など)
 内容ごとに小見出しをつけて、整理して書く。1つの小見出しにつき、何十行も書いてしまうと大変読みづらいので必要ならば「小見出しの小見出し」を付けてもいいので、コンパクトにまとめるように心がける。

7 週目のショートレポート(1回目)で書くこ

2. (「構想した学校の特徴」 など)
 (構想した学校の特徴などを整理して説明する)

2 回目のショートレポートや最終レポートでは、このような方法で記述します。

3. (「検討したい教育課題」 など) 以下例文です。
 私たちの学校は、主に学力低下の問題に注目している¹。……
 ……荻谷(2002)²は、2001年11月に関西都市圏で小中学生を対象に「学力テスト」と「生活・学習アンケート」を実施し、1989年に大阪大学のグループが実施した調査結果とを比較している。荻谷は、この調査により社会的階層によって学力の格差が生じていることを明らかにしている。……文部科学省は、ホームページで「子どもたちの学力の現状」を公開している。³……吉崎(2004)は、「教育の方法と技術」の中で「一人ひとりの子どもに基礎的な学力を培うためには、子どもの学年段階、教科の特徴、単元内容、教職員の人数などを考慮しながら、多様な学習指導法を導入する必要がある」と述べている。⁴このように……

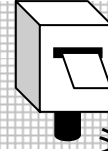
¹ どのような教育問題を取り上げたのかを明確にする。その上でどのような学校を構想したのかを説明するとよい。

参考文献・URL (2・3 参考にした文献・URL は以下のように記述する)
 荻谷剛彦ほか(2002)「岩波ブックレット No.578『学力低下』の実態」岩波書店
 文部科学省「子どもたちの学力の現状」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/genjo.htm (2004.11.8 アクセス)

引用文献 (4 文献の一部を引用した場合は必ず出典を記述する)
 吉崎静夫(2004)「学力と学習の自己責任」『教育の方法と技術』ミネルヴァ書房 p.67 (複数ページの場合は「pp. - 」)

↓

チームの機能不全 診断テスト結果(チーム)



提出
シート

チーム番号()

「07-02 チームの機能不全診断テスト」の結果を以下の表にまとめてください。

氏名を書いてください	「1 信頼の欠如」の点数	「2 衝突への恐怖」の点数	「3 責任感の不足」の点数	「4 説明責任の回避」の点数	「5 結果への無関心」の点数

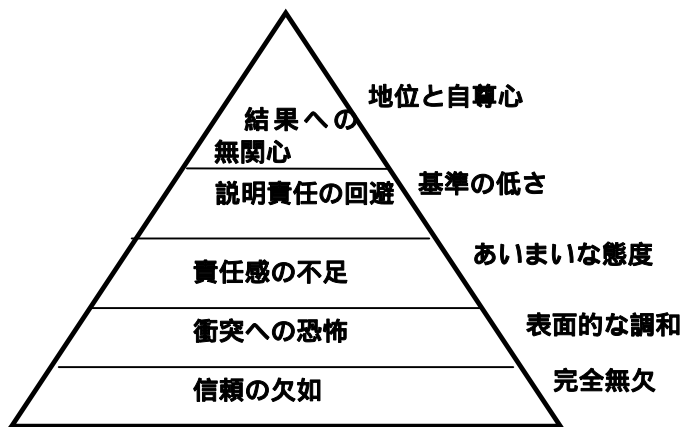


図1 チームの機能不全のモデル
P. トリック・レンシオーニ「あなたのチームは機能していますか」p.207 より

- 1 信頼の欠如 ...チーム内で弱みを見せないことから生じる。
- 2 衝突への恐怖...腹を割って激しく意見をたたかわせない。あいまいな議論や慎重な発言が多い。
- 3 責任感の不足...表面的に同意をするため、決定を支持し責任をもつことができない。
- 4 説明責任の回避...チームのためにならない行動や態度をとった仲間をとがめるのに躊躇する
- 5 結果への無関心...チーム全体の目標より個人のニーズや自分の部門のニーズを優先させる
(以上は「あなたのチームは、機能していますか?」より教材作成者がまとめたもの

- 8 ~ 9点...チームに機能不全は現れていないと考えられる。
- 6 ~ 7点...機能不全が問題になる可能性がある。
- 3 ~ 5点...機能不全に対処する必要があると考えられる。